

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891500054
法人名	医療法人 辻井循環器科内科
事業所名	グループホームはあと
所在地	東温市田窪2054-1
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 12 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康管理が行き届いている。  
職員が真面目に努力し、精一杯対応していて好感が持てる。  
精神面・健康面をトータルでサポートしてくれる。  
家庭的でさびしくなく、穏やかに過ごされている。  
環境も良く落ち着いた雰囲気もあり明るいホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

優しいオレンジで平屋建ての事業所は、伊予鉄郊外電車の田窪駅近くにあり地域住民などの目を引いている。同じ地域で母体診療所と他のグループホームを運営している。母体診療所の往診による健康管理をしているほか、24時間体制での医療連携が取れており、緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族には安心感がある。事業所では看取り支援にも力を入れて取り組んでおり、職員は勉強会に参加するなど看取りへの後悔の念を残さないよう、チーム体制でできるケアに努めている。また、年間の研修計画を立て、職員に学ぶ機会を定期的に提供しスキルアップにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム はあと

(ユニット名) A館

記入者(管理者)  
氏名 光田 陽子

評価完了日 26年 11月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 一人ひとりの個性の尊重や地域に密着した生活を支援していく事をホームの理念としている。</p> <p>(外部評価) 法人理念を事業所の運営に活かせるよう職員で話し合い、「共に生きる、一人ひとりの気持ちを大切にする、きめ細やかな健康管理、地域の交流を大切にする」という分かりやすい事業所独自の理念を作成している。入職時に管理者から理念を説明し、月2回のミーティングで話し合うなど、意識統一をしたケアを実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 市の文化祭や秋祭りなどに参加している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議で得た地域の情報を活用し、亥の子や地方祭、文化祭などに参加し、地域住民と関わりが持てるようになった。毎月12日には近くにある隻手薬師に参拝し、馴染みの地域住民に出会うこともある。日常的な近所付き合いができる気軽な関係はまだ築けていないが、地域の保育園へアプローチするなど、交流への新たな一歩を踏み出したところにある。</p>	地域へ出かける機会を増やし、地域住民と繋がりを持つという姿勢を伺うことができる。地域の資源を活かし、事業所として協力できる社会貢献に取り組みながら、相互の協力体制が築けることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症の対応に関する相談を受けられるようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 奇数月の月末の金曜に運営推進会議を行なっている。 利用者さんのご家族も出席してもらっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、区長、民生委員、市担当 者、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2か月毎 に市内にある同じ法人の事業所と合同で開催している。会 議では運営に関する報告を行うほか、前回の会議で出され た意見を反映したテーマを設定し、勉強会やレクリエー ションなどに参加するしてもらうなど、事業所の様子を 知ってもらい魅力ある会議となるよう努力している。ま た、会議にはユニット間仕切りを開放し、多くの利用者 にも参加をしてもらう工夫をしている。参加者から得た地 域行事などの情報を活用し、この一年で地域へ出向く機 会が増え、運営に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 色々な行事、イベントがある事を教えてもらい、積極的に 参加している。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の実情や運営状 況を報告し、情報や助言をもらっている。地域包括支援セ ンターが主催する研修会へ参加するほか、他の事業所と相 互の情報交換を行うなど良好な関係が築かれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 拘束までに至らないように職員で話し合いケアプランを作 成している。</p> <p>(外部評価) 弄便や皮膚搔痒、胃ろう破損、チューブ抜去などの利用者 の危険性を考え、つなぎ服やミトンを使用したり、事業所 裏に線路があるため安全面を考え居室の窓やユニット間等 に施錠をしている。事業所として身体拘束マニュアルを整 備し、具体的な行為について勉強会や研修で学ぶ機会があ り、拘束を行う場合は現状を家族に説明して同意を得てい る。管理者は具体的な拘束の対象となる行為をせずにケア していきたいと考えている。</p>	<p>指定基準における禁止の対象となる具体的な行為の勉 強会を実施し、職員は理解に努めている。家族の希望 や清潔保持、安全面などの確保から拘束となる行為を 選択しているが、実施期間や代替策、見守り等を行う などケアを見直したり、利用者の自由な暮らしが実現 できるよう職員間で話し合ったりすることを期待した い。また、職員全員で「身体拘束や行動制限をしない ケアを行うためにどうしたらいいか」という共通思考 のもと議論を行い、工夫を重ねながら実践に繋げるこ とを期待したい。</p>

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修などに参加し、職員全員が把握するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、職員間での話し合いをし、把握できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者(ケアマネ)、職員が詳しく説明を行なっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の時にご家族に出席してもらい、意見を言ってもらっている。 ご家族からの要望を聞き、ケアプラン作成などに活かしている。	
			(外部評価) 日々の暮らしの中で利用者から意見や要望を聞いており、「外出をしたい」などの希望が出される。利用者にも運営推進会議に参加してもらい、運営の実情を伝えている。面会時や運営推進会議の開催時の機会を利用して、家族と信頼関係を深めながら意見や要望を吸い上げるよう努めている。また、家族には毎月の事業所新聞やお便りを送付したり受診内容を報告したりしている。家族から衣類管理や日中の活動内容等の意見や要望が出され、職員間で話し合い対応できるよう努めている。必要に応じて、カンファレンスに参加してもらい介護計画に盛り込むなど早期の対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にミーティングを開き、管理者に意見を聞いてもらっている。	
			(外部評価) 医師である法人代表者は往診時や担当者会議などで事業所に来ることも多く、職員と会話をする機会もある。日常業務の中や月2回のミニカンファレンス等で、職員は管理者等に意見を伝えたり悩みなどを相談したりすることができる。管理者は職員一人ひとりのサービス向上に対する努力を把握し、職員間で良好な連携ができる環境づくりを行い職員の定着に繋がっている。介護未経験の新人職員も増え、管理者は改めて認知症への理解などの勉強会の実施や職員教育に取り組みたいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員同士で話し合い、お互いに協力出来るようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加し、報告会を行いレポートを書いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修に参加し、意見交換しており、それを職員に報告し話し合っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人の話をよく聞き、要望などあれば対応していく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<b>(自己評価)</b> 当事業所は、管理者、ケアマネ、現場の職員と家族間で毎月モニタリングを行い、ご家族の不安や心配事を聞き取るようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<b>(自己評価)</b> ご家族の質問や相談内容にはその日のうちに返答が出来るように敏速に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<b>(自己評価)</b> 生活全般にお手伝いという形で協力して頂いている。例えば洗濯物を畳んで頂いたり料理の具材を混ぜて頂いたり、職員と一緒に作業をして頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<b>(自己評価)</b> ご本人の生活状況をご家族に伝えたり、話をすることでコミュニケーションをとり信頼関係を作りご本人を支える関係に努めている。毎月、個人の生活の報告をお手紙で送っている。運営推進会議への参加も促している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<b>(自己評価)</b> ご本人やご家族から生活歴を聞き、地域の行事などに参加し馴染みの場所等の関係が途切れないように活動している。 <b>(外部評価)</b> 利用開始前に利用者や家族から馴染みの関係などを聞き、アセスメントシートにまとめ職員間で閲覧して共有している。日々の生活の中で新たに得た情報は、その都度追加して記録し共有している。毎月12日はこの地域で信仰の篤い隻手薬師へ利用者と一緒に参拝したり、仏壇の世話やお墓参りなど、利用者がこれまで大切にしてきた関係や習慣等の関係が継続できるよう支援している。馴染みの美容室に出かけた利用者もいたが、重度化等に伴い訪問理美容を利用するようになった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の性格を把握し、より良いコミュニケーションをとれるように食事中やホームでのミニデイ等多く機会が持てるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了してもアフターフォローをし、いつでもの相談に乗れるようにしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来るだけご本人の希望に沿うようにしている。困難な場合はご本人の主体性を尊重し、より良い決定が出来るように助言している。 会話が困難な利用者については、ご家族などから情報を得てご本人の立場に立って考えるようにしている。	
			(外部評価) 認知症状の進行により思いを伝えることが困難になった利用者が増えてきているが、日常のコミュニケーションを通じて表情等から気持ちをくみ取ったり、家族から情報を聞いて検討し、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。以前の嗜好習慣から「たばこを吸いたい、お酒を飲みたい」などの希望を聞き、医師などに症状や状態を確認しながら、利用者の思いに沿える支援ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族から生活歴を聞き、職員全員で把握しサービスに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとり、カルテ・経過表・行動チェック表に記入し、日々の生活をチェックしている。ご本人の出来る力を発見した際は、職員全員に情報を共有し活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケアプランを見直している。状態によってモニタリングを行い、管理者・主治医やケアマネ、職員等により良いサービスの向上を目指している。ご家族も出席して話し合う機会をもっている。	
			(外部評価) 利用者毎の担当制を採らず、職員全員で利用者の状態や情報を把握して支援している。サービス担当者会議には医師や家族等に参加してもらって話し合い、意見やアイデアを反映して介護計画を作成している。月2回ミニカンファレンスでは、職員一人ひとりが利用者がより良く暮らすための課題やケアのあり方などを事前に検討し「気づき用紙」に記入してから参加し、利用者の様子などを日頃から注意深く観察できている。ケア行動計画に毎日記録が行われ、根拠あるモニタリングに繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 経過表を記入し、ケア行動計画の実施状況を毎日チェックし、評価する事で状態変化をすぐに察知できるようにしている。特別変化のあったこと、日誌に記入し申し送り、職員間で情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけご本人の希望に沿う様にしている。 柔軟な支援やサービスが出来るよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らしから屋生活環境を聞き、職員全員が把握し地域の行事に参加するなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月に3回主治医の訪問診察があり、利用者個々の健康状態 は把握できている。 主治医及び協力医療機関への連携体制が確立されている。	
			(外部評価) 母体診療所の受診からサービス利用に繋がるが多く、 母体診療所を利用者はかかりつけ医としている。往診によ る健康管理をしているほか、24時間体制での医療連携が取 れており、緊急時にも迅速に対応することができ、利用者 や家族には安心感がある。専門医の受診は家族に同行して もらい、家族が同行できない場合には介護タクシーで対応 している。日々細やかな健康管理を徹底し、受診時には 日々の利用者の様子を詳細に伝えることができている。診 察内容は書面で情報提供を受け、家族と情報を共有してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 病院内の看護師も利用者の事を把握しているでの医療面でも 支援できる態勢にある。 夜間緊急時にはすぐに電話連絡をし、相談・指導を受けて いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は情報交換がスムーズに行えるように介護要約書に て報告をし電話にて常に連絡を取り合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医や管理者、ケアマネ、職員及びご家族で話し合い、 ご本人の意向を取り入れられるよう方針を立てている。ま た看取り介護の同意書を得ると、毎日の容態を記したもの を1週間ごとに御家族へ報告している。	
			(外部評価) 事業所では、多くの看取りを経験している。「重度化した 場合における対応および看取りに関する指針」を整備して おり、入居前に利用者や家族に説明し意向を確認してい る。また、状態の変化に応じて、医師等を交えて話し合い 利用者や家族の意向を確認し、医療機関と連携しながら チームでの支援に取り組んでいる。職員は外部研修に参加 したり母体診療所の勉強会に参加するなど、看取り支援に 職員が後悔の念を残さず、できるケアを精一杯する心構え で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時は適切な医療が受けられるように、職員全員が講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月職員全員で通報訓練を行なっている。 半年に一度、消防署の協力のもと避難訓練を行なっている。  (外部評価) 年2回、昼間や夜間の様々な場面を想定した避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の協力を得てアドバイスをもらっている。平屋造りの事業所には避難経路は各所にあるが、車いすの利用者も多く夜間の職員の少ない時間帯には安全に避難誘導できるか職員に不安があるため、アイデアを出し合った訓練を予定している。毎月、担当職員を決め消防署へ通報訓練を行ったり、様々な災害に対応できるマニュアルを整備し、災害毎の対策を確認している。	毎月の通報訓練は緊急時の備えに繋がり、地道な取組みを継続していることは評価できる。夜間の災害の発生など、職員の不安軽減になる話し合いをしたり、地域住民などとの具体的な協力体制を築いたりすることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に気配りを行い、利用者のプライバシーを尊重し、思いやりのある優しい言葉遣いでせつするよう心がけている。  (外部評価) 管理者は分かりやすい丁寧な言葉づかいで声かけをするよう指導している。入浴や排泄時には利用者の羞恥心や尊厳に配慮した対応を心がけている。事前に利用者の呼び方の希望を確認し対応している。個人情報の取り扱いは同意書を取り、書類等も適切に管理している。。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の個々の意見に耳を傾け、ご本人の好きな事やしたい事をケアプランに盛り込み、日々楽しく過ごしてもらえよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活を様子観察し、その人に合った暮らしが出来よう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に合わせて対応している。自力で出来ない利用者は職員が対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に希望を聞いて無理を押し付けることなく楽しい食事の雰囲気が出るよう心がけている。	
			(外部評価) 法人の管理栄養士が栄養バランスのとれた献立を作成している。食材を法人で一括購入し、下ごしらえなど利用者ができることを一緒に手伝ってもらいながら職員が調理をしている。ユニット毎に副菜を手分けして調理することもある。職員は利用者と同じ食卓を囲み、食事をしている。管理栄養士は運営推進会議にも出席し、利用者の好みや意見、状態等の把握を行い、利用者のパン食希望など献立に反映している。また、利用者の食に対するアンケートを実施して嗜好などを把握し、おやつを食べに外出するなど、食が楽しみに繋がる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人別に水分。食事摂取量を記録し、一日を通して摂取量が確保できるようにしている。 食事量が少ない場合は栄養価の高い飲み物をお勧めしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた口腔ケアをおこなっている。 スポンジクリーナーや舌ブラシなど、それぞれに合ったものを使用し、自力で出来ない利用者は職員が介助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーには十分配慮し、ご本人の出来る力に合わせた排泄の支援を行っている。 排泄時間を記入し、対応している。	
			(外部評価) 排泄介助時には利用者の羞恥心に配慮した支援をしている。排泄した時間を記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。トイレに誘導することにより失禁の回数を軽減させ、利用者の身体機能の維持に努めたり、できることを見極めて支援したりするなど、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医に相談し、一人ひとりの状態に応じ排便コントロールをしている。飲み物や食材を工夫し、ラジオ体操等の運動を行なっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に沿って臨機応変に対応している。状態不安定な利用者や拒否のある時は時間をおいたり翌日に変更したりと、無理のないように対応している。	
			(外部評価) ユニット毎に個別浴槽があり、うち1か所はリフトを設置している。週3回を基本として、利用者の希望を聞きながら入浴することができる。身体状態に応じて、ユニット間で協力し合い、2人体制で安心安全に入浴できるよう支援している。入浴を嫌う利用者には無理強いをせず、声かけのタイミングや誘い方に工夫している。また、入浴できない場合には清拭を行い、利用者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも休息が取れるように居室やホール内をオープンにしている。夕食前には睡眠体操を行い安眠を誘っている。昼夜逆転にならないように生活のリズムに気を付けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ADLの低下に伴い、職員が管理し服薬援助を行なっている。 薬剤情報がいつでも見られるように保管している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の好きな方は洗濯畳みや洗い物などのお手伝いをしてもらっている。読書が好きな方はいつでも雑誌や新聞等が読めるようにしている。カラオケをいつでも利用できるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人の希望に沿ってご家族との外出も自由にしてもらっている。地域の行事にも参加するようにしている。 毎月、隻手薬師の参拝も支援している。 毎日午後から職員と共に散歩に出かけている。  (外部評価) 週3回程度、事業所周辺を散歩できるよう支援している。 毎月12日には近くの隻手薬師への参拝が恒例となっており、利用者も楽しみにしている。運営推進会議で得た地域の情報を活用し、利用者の希望を取り入れながら外出を支援している。日曜日には入浴がないため外出支援をしやすくなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者と一緒に買い物に行き、ご本人が好きなおやつなどを選び支払いをしてもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望がある時は電話をしてもらっている。友人からかかってくる時もある。 毎年年賀状や暑中見舞いの葉書をホームからご家族と利用者へ送っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節感を感じてもらえるように、季節の花などを飾っている。 共有スペースで寛いでもらえるように音楽をかけたり、自分の家にいるような雰囲気づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 平屋建ての事業所は共用空間が広く、行事などの開催時にはユニット間の仕切りを外して使用している。感染予防対策を見直し、共用タオルやめ紙タオルを導入したり、利用者毎の食器を使用したりするよう改善している。清潔保持にも気をつけ、共用空間などの清掃も注意して行われるようになり、衛生管理を行うことで利用者が快適な空間で過ごせるよう配慮している。リビングから見える季節の草花の手入れを利用者と一緒に行うなど、ゆったりと過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 自室とホールを行き来できるような配置になっており、利用者一人ひとりが好きな場所、落ち着いた場所で過ごせる用になっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者の趣味の物好みの物に囲まれて暮らせるように以前から使用していた愛着のある物をホームでも使用してもらっている。</p> <p>(外部評価) 居室の清掃は職員がしているが、生活習慣から廊下等を清掃する利用者には一緒に手伝ってもらっている。居室にはベッドやタンス、エアコンが備えられており、利用開始時に馴染みの物を持ち込めることを伝えている。仏壇など大切な物を持ち込み、利用者に合った空間づくりをしている。よその居室などが気になったりする利用者にも職員が手助けしながら、落ち着いて生活することができるよう支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者一人ひとりの出来る事を見つけ、それを維持できるよう職員間で話し合いケアプランを作成している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891500054
法人名	医療法人 辻井循環器科内科
事業所名	グループホームはあと
所在地	東温市田窪2054-1
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 12 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康管理が行き届いている。  
職員が真面目に努力し、精一杯対応していて好感が持てる。  
精神面・健康面をトータルでサポートしてくれる。  
家庭的でさびしくなく、穏やかに過ごされている。  
環境も良く落ち着いた雰囲気もあり明るいホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

優しいオレンジで平屋建ての事業所は、伊予鉄郊外電車の田窪駅近くにあり地域住民などの目を引いている。同じ地域で母体診療所と他のグループホームを運営している。母体診療所の往診による健康管理をしているほか、24時間体制での医療連携が取れており、緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族には安心感がある。事業所では看取り支援にも力を入れて取り組んでおり、職員は勉強会に参加するなど看取りへの後悔の念を残さないよう、チーム体制でできるケアに努めている。また、年間の研修計画を立て、職員に学ぶ機会を定期的に提供しスキルアップにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム はあと

(ユニット名) B館

記入者(管理者)

氏名 光田 陽子

評価完了日

26年 11月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 一人ひとりの個性を尊重し、地域に密着した生活を支援していく事を理念とし、地域に密着したグループホームを目指す事をあげている。	
			(外部評価) 法人理念を事業所の運営に活かせるよう職員で話し合い、「共に生きる、一人ひとりの気持ちを大切にする、きめ細やかな健康管理、地域の交流を大切にする」という分かりやすい事業所独自の理念を作成している。入職時に管理者から理念を説明し、月2回のミーティングで話し合うなど、意識統一をしたケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地方祭、敬老会、文化祭などの地域の行事に利用者と共に参加したり、来訪により交流を持っている。管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声掛け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるように日常的に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議で得た地域の情報を活用し、亥の子や地方祭、文化祭などに参加し、地域住民と関わりが持てるようになった。毎月12日には近くにある隻手薬師に参拝し、馴染みの地域住民に出会うこともある。日常的な近所付き合いができる気軽な関係はまだ築けていないが、地域の保育園へアプローチするなど、交流への新たな一歩を踏み出したところにある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症に対する介護方法や理解などの相談にいつでものれるようにしている。ボランティア、研修の受け入れ体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議で出た貴重な意見を取り上げ、管理者や職員間で話し 合い、サービスの向上に活かしている。報告書は会議参加 者全員に配布している。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、区長、民生委員、市担当 者、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2か月毎 に市内にある同じ法人の事業所と合同で開催している。会 議では運営に関する報告を行うほか、前回の会議で出され た意見を反映したテーマを設定し、勉強会やレクリエー ションなどに参加するしてもらうなど、事業所の様子を 知ってもらい魅力ある会議となるよう努力している。ま た、会議にはユニット間仕切りを開放し、多くの利用者 にも参加をしてもらう工夫をしている。参加者から得た地 域行事などの情報を活用し、この一年で地域へ出向く機 会が増え、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進委員会などで交流を持っている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の実情や運営 状況を報告し、情報や助言をもらっている。地域包括支 援センターが主催する研修会へ参加するほか、他の事業 所と相互の情報交換を行うなど良好な関係が築かれてい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で身体拘束をしない方法での対応について話し 合い、常に身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 弄便や皮膚搔痒、胃ろう破損、チューブ抜去などの利用 者の危険性を考え、つなぎ服やミトンを使用したり、事 業所裏に線路があるため安全面を考え居室の窓やユニ ット間等に施錠をしている。事業所として身体拘束マ ニュアルを整備し、具体的な行為について勉強会や研修 で学ぶ機会があり、拘束を行う場合は現状を家族に説 明して同意を得ている。管理者は具体的な拘束の対象 となる行為をせず、ケアしていきたいと考えている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為の 勉強会を実施し、職員は理解に努めている。家族の希 望や清潔保持、安全面などの確保から拘束となる行為 を選択しているが、実施期間や代替策、見守り等を行 うなどケアを見直したり、利用者の自由な暮らしが実 現できるよう職員間で話し合ったりすることを期待し たい。また、職員全員で「身体拘束や行動制限をしない ケアを行うためにどうしたらいいか」という共通思考 のもと議論を行い、工夫を重ねながら実践に繋げるこ とを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し学んでいる。制度内容はミーティングなどで説明したり、内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで学び、報告書を作成して職員に内容を説明している。内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、職員が詳しく説明をし、質問にも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族さんからの意見や要望はいつでも受け付け、対応は管理者が行い計画担当者間で報告し合っている。	
			(外部評価) 日々の暮らしの中で利用者から意見や要望を聞いており、「外出をしたい」などの希望が出される。利用者にも運営推進会議に参加してもらい、運営の実情を伝えている。面会時や運営推進会議の開催時の機会を利用して、家族と信頼関係を深めながら意見や要望を吸い上げるよう努めている。また、家族には毎月の事業所新聞やお便りを送付したり受診内容を報告したりしている。家族から衣類管理や日中の活動内容等の意見や要望が出され、職員間で話し合い対応できるよう努めている。必要に応じて、カンファレンスに参加してもらい介護計画に盛り込むなど早期の対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にミーティングを行い、管理者と職員間で話し合いをする機会を設けている。朝の申し送り時に管理者がそれぞれの意見や提案を聞く機会を持っている。	
			(外部評価) 医師である法人代表者は往診時や担当者会議などで事業所に来ることも多く、職員と会話をする機会もある。日常業務の中や月2回のミニカンファレンス等で、職員は管理者等に意見を伝えたり悩みなどを相談したりすることができる。管理者は職員一人ひとりのサービス向上に対する努力を把握し、職員間で良好な連携ができる環境づくりを行い職員の定着に繋がっている。介護未経験の新人職員も増え、管理者は改めて認知症への理解などの勉強会の実施や職員教育に取り組みたいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員同士がお互いに協力し合い、時には競い合って働けるような勤務体制を心がけている。職員それぞれの得意な分野が活かされるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外部の研修会に積極的に参加し、報告会を持っている。研修資料は全員が目を通し、レポートを書いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種講習会や勉強会には積極的に参加し報告会を開いている。外部研修の受講時に同業者と交流を持ち、他のホームの取り組みを参考にしている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) まず本人の話をよく聞き、相槌を打ち、こちらも理解している事を分かってもらうようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを開始する際にご家族等より要望などがあれば取り入れて改善していき、信頼関係を築く様にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスを利用開始前にご家族、利用者話し合いの場を設け、要望や注意点など確認し合う。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員が一方的に介護をするだけでなく、利用者出来る事のお手伝いなどをしてもらいながら職員自身の成長にも繋げる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人の生活状況をご家族に伝え、カンファレンスなどの話し合いや毎月の手紙などを活用しご家族との信頼関係を築く。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者が以前行っていた習慣や参加していた行事などを活用し、出来る限りサポートを行う。  (外部評価) 利用開始前に利用者や家族から馴染みの関係などを聞き、アセスメントシートにまとめ職員間で閲覧して共有している。日々の生活の中で新たに得た情報は、その都度追加して記録し共有している。毎月12日はこの地域で信仰の篤い隻手薬師へ利用者と一緒に参拝したり、仏壇の世話やお墓参りなど、利用者がこれまで大切にしてきた関係や習慣等の関係が継続できるよう支援している。馴染みの美容室に出かけた利用者もいたが、重度化等に伴い訪問理美容を利用するようになった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの事を把握し、利用者同士のコミュニケーション方法などに配慮しながら共有の時間をもち、お互いに支え合う関係性になれるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了時に詳細な引継ぎや説明を行い、その後もいつでもフォローが出来るようにしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の希望に沿う様にし、困難な場合でも出来るかぎりご本人の希望を尊重している。 利用者が意思疎通困難な場合はご家族や関係者から情報を収集しご本人の気持ちに沿って考えるようにしている。	
			(外部評価) 認知症状の進行により思いを伝えることが困難になった利用者が増えてきているが、日常のコミュニケーションを通じて表情等から気持ちをくみ取ったり、家族から情報を聞いて検討し、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。以前の嗜好習慣から「たばこを吸いたい、お酒を飲みたい」などの希望を聞き、医師などに症状や状態を確認しながら、利用者の思いに沿える支援ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者、ご家族からの情報を職員が把握し、サービス提供できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常の様子や言動から、ご本人の希望している事や思いの理解に努め、適切な支援が出来るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) アセスメントに基づいて利用者主体でケアプランを作成している。毎月ミーティングやカンファレンスを行い、ご家族と共に利用者の現状の確認や今後の計画を話し合っている。 サービス内容は具体的なものを提供している。	
			(外部評価) 利用者毎の担当制を採らず、職員全員で利用者の状態や情報を把握して支援している。サービス担当者会議には医師や家族等に参加してもらって話し合い、意見やアイデアを反映して介護計画を作成している。月2回ミニカンファレンスでは、職員一人ひとりが利用者がより良く暮らすための課題やケアのあり方などを事前に検討し「気づき用紙」に記入してから参加し、利用者の様子などを日頃から注意深く観察できている。ケア行動計画に毎日記録が行われ、根拠あるモニタリングに繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 経過表の記入やケアプランの実施状況を毎日チェックし、状態に変化があった際にすぐに察知できるようにしている。勤務交代時に申し送りをし、職員間で情報を共有している。定期的にミーティングを行い、ケアプランの変更や追加等がないか確認している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者やご家族からの意見を取り入れ、サービス提供している。 デイサービスへの参加などにより、ご本人の生活に広がりが出るようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 消防署や地域包括支援センターなどの機関や、民生委員やボランティアと協力していく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 運営は診療所であり、定期的に訪問診察を受けられる体制 にある。主治医が利用者の状態を把握できるよう詳細な記 録書類を提示している。	
			(外部評価) 母体診療所の受診からサービス利用に繋がる事が多く、 母体診療所を利用者はかかりつけ医としている。往診によ る健康管理をしているほか、24時間体制での医療連携が取 れており、緊急時にも迅速に対応することができ、利用者 や家族には安心感がある。専門医の受診は家族に同行して もらい、家族が同行できない場合には介護タクシーで対応 している。日々細やかな健康管理を徹底し、受診時には 日々の利用者の様子を詳細に伝えることができている。診 察内容は書面で情報提供を受け、家族と情報を共有してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 緊急の際は診療所の看護師と常時連絡が取れる体制が出来 ており、夜間も電話連絡等で指示をもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には情報を介護要約書や電話連絡にてスムーズに提 供し、綿密な連絡を取っている。 定期的に面会し状態を把握し、受け入れ態勢を整えてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者やご家族の意向を取り入れ、主治医、ケアマネ、介 護職員及び家族間で話し合い方針を立てている。 看取り介護の同意書を得ると共に、毎日の利用者の状態を 記したものを1週間毎に御家族に報告している。	
			(外部評価) 事業所では、多くの看取りを経験している。「重度化した 場合における対応および看取りに関する指針」を整備して おり、入居前に利用者や家族に説明し意向を確認してい る。また、状態の変化に応じて、医師等を交えて話し合い 利用者や家族の意向を確認し、医療機関と連携しながら チームでの支援に取り組んでいる。職員は外部研修に参加 したり母体診療所の勉強会に参加するなど、看取り支援に 職員が後悔の念を残さず、できるケアを精一杯する心構え で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルがあり、職員全員がいつでも閲覧できるようにしている。また、管理者から定期的に指導している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練を定期的に行なっている。緊急連絡網を作り全員に配布している。 毎月1回、通報訓練を行なっている。	
			(外部評価) 年2回、昼間や夜間の様々な場面を想定した避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の協力を得てアドバイスをもらっている。平屋造りの事業所には避難経路は各所にあるが、車いすの利用者も多く夜間の職員の少ない時間帯には安全に避難誘導できるか職員に不安があるため、アイデアを出し合った訓練を予定している。毎月、担当職員を決め消防署へ通報訓練を行ったり、様々な災害に対応できるマニュアルを整備し、災害毎の対策を確認している。	毎月の通報訓練は緊急時の備えに繋がり、地道な取組みを継続していることは評価できる。夜間の災害の発生など、職員の不安軽減になる話し合いをしたり、地域住民などとの具体的な協力体制を築いたりすることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に気配りを行い、丁寧な言葉遣いを心がけている。特に排泄面では気を付けている。また、職員同士でお互いに注意し合うようにしている。	
			(外部評価) 管理者は分かりやすい丁寧な言葉づかいで声かけをするよう指導している。入浴や排泄時には利用者の羞恥心や尊厳に配慮した対応を心がけている。事前に利用者の呼び方の希望を確認し対応している。個人情報の取り扱いは同意書を取り、書類等も適切に管理している。。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望に耳を傾け、出来る事を見極めケアプランにも盛り込んで日課として取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事や入浴、就寝など一人ひとりのペースに合わせて支援している。外出や買い物などの希望もその都度支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に沿って対応している。 月に一度、訪問理美容を利用している。 ご家族と共に美容室へ行く利用者もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一日の献立を発表したり、食べたい物や調理方法などを利用者に訊いている。職員も一緒に食事を摂り、感想などを訊きその後の献立等に活かしている。 片付けなども利用者に手伝ってもらっている。	
			(外部評価) 法人の管理栄養士が栄養バランスのとれた献立を作成している。食材を法人で一括購入し、下ごしらえなど利用者ができることを一緒に手伝ってもらいながら職員が調理をしている。ユニット毎に副菜を手分けして調理することもある。職員は利用者と同じ食卓を囲み、食事をしている。管理栄養士は運営推進会議にも出席し、利用者の好みや意見、状態等の把握を行い、利用者のパン食希望など献立に反映している。また、利用者の食に対するアンケートを実施して嗜好などを把握し、おやつを食べに外出するなど、食が楽しみに繋がる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人別に水分、食事摂取量を付け、一日を通して摂取量が確保出来るよう職員が把握できるようになっている。水分は一日1200mlの摂取を目安にしている。食所量が少ない場合は栄養価の高い食品や飲み物をお勧めしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた口腔ケアを行っている。歯ブラシ、クリーナー、舌ブラシなどそれぞれ合った物を使用し、出来ない方への支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりに合わせ対応している。 定期的にパット交換、トイレ誘導している。 排泄時間をチェックしており、失禁を減らすように努力している。	
			(外部評価) 排泄介助時には利用者の羞恥心に配慮した支援をしている。排泄した時間を記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。トイレに誘導することにより失禁の回数を軽減させ、利用者の身体機能の維持に努めたり、できることを見極めて支援したりするなど、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医と相談し排便コントロール表を作成しており、それに基づいて対応している。 稀に看護師に処置を依頼している。 ラジオ体操など運動も促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に合わせて強制はせず、その都度対応している。	
			(外部評価) ユニット毎に個別浴槽があり、うち1か所はリフトを設置している。週3回を基本として、利用者の希望を聞きながら入浴することができる。身体状態に応じて、ユニット間で協力し合い、2人体制で安心安全に入浴できるよう支援している。入浴を嫌う利用者には無理強いをせず、声かけのタイミングや誘い方に工夫している。また、入浴できない場合には清拭を行い、利用者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 居室やホールをオープンにしている。 昼夜逆転にならないよう注意している。 頻繁に不眠を訴える方には、主治医と相談し夜間も安眠できるよう対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤情報を個別に保管しており、いつでも閲覧できるようにしている。変更があった場合もすぐに対応できている。服薬管理も適切に行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事を中心に活躍の場を作り、積極的にされている。ミニデイ等で外出支援も行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域行事、イベントに積極的に参加している。天気の良い日は毎日散歩に出かけ、他館との交流も図っている。  (外部評価) 週3回程度、事業所周辺を散歩できるよう支援している。毎月12日には近くの隻手薬師への参拝が恒例となっており、利用者も楽しみにしている。運営推進会議で得た地域の情報を活用し、利用者の希望を取り入れながら外出を支援している。日曜日には入浴がないため外出支援をしやすくなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在は金銭管理が出来る利用者がいないため、全て職員が管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望があれば電話してもらっている。手紙のやり取りは現在されていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 花や掲示物を飾っている。 テラスにも花が置いてあり、水やり等で他館との交流が 出来ている。 ホールにはソファ等が設置してあり、過ごしやすい空間 づくりを心がけている。</p> <p>(外部評価) 平屋建ての事業所は共用空間が広く、行事などの開催時 にはユニット間の仕切りを外して使用している。感染予防 対策を見直し、共用タオルやめ紙ペーパータオルを導入し たり、利用者毎の食器を使用したりするよう改善してい る。清潔保持にも気をつけ、共用空間などの清掃も注意し て行われるようになり、衛生管理を行うことで利用者が 快適な空間で過ごせるよう配慮している。リビングから見 える季節の草花の手入れを利用者と一緒に行うなど、ゆっ たりと過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者 同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をして いる	<p>(自己評価) 一人ひとり自由に過ごして貰っている。 利用者同士の会話も多く、他館との交流も盛んである。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しな がら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人 が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れたものを置き、居心地よく過ごせるよう配 慮している。</p> <p>(外部評価) 居室の清掃は職員がしているが、生活習慣から廊下等 を清掃する利用者には一緒に手伝ってもらっている。居 室にはベッドやタンス、エアコンが備えられており、利 用開始時に馴染みの物を持ち込めることを伝えている。 仏壇など大切な物を持ち込み、利用者にとって合った 空間づくりをしている。よその居室などが気になったり する利用者にも職員が手助けしながら、落ち着いて生 活することができるよう支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各所に手すりを付けたり、家具等の配置に気を付ける など、安全に過ごせるよう心がけている。</p>	